

いわき農林水産ニュース

(ごちそう ふくしま絆づくり運動ニュース)

9月号 発行 平成25年 9月 26日



〈東日本大震災関連〉



いわき地方の農林畜産物 モニタリング調査結果

福島県が行ったいわき地方の8月の農林畜産物の放射性セシウムモニタリング調査結果をお知らせします。

調査した17品目62検体のうち、15品目54検体は、検査機器の検出限界値以下でした。品目としては、エダマメ、スイカ、モロヘイヤ、カボチャ、パレイショ、パプリカ、オクラ、日本なし、モモ、ブドウ、イチジク、牛肉、原乳、菌床なめこ(施設)、菌床しいたけ(施設)の検体すべてにおいて検出が認められませんでした。

基準値内で検出のあった2品目は、ミョウガと小麦で、基準値を超えたものはありませんでした。

8月31日現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が制限されているのは、ユズ、くり、たけのこ、ぜんまい、たらめ(野生のものに限る。)わらび、こしあぶら、野生きのこ、原木なめこ(露地栽培)で、さんしょう(野生のものに限る。)が出荷自粛となっています。

また、平成24年産の米は、全袋検査を実施しており、8月末までの検査点数522,199点のうち99.7%の520,665点が測定機器の測定下限値未満、1,534点が基準値内で検出が確認されました。もち米1点が基準値を超過しましたが、管理されており、市場には出回っておりません。平成25年産米につきましては、検査が実施され次第お知らせします。

調査結果は、福島県のホームページ「ふくしま新発売。」の農林水産物モニタリング情報、24年産米については、「ふくしまの恵み安全対策協議会」で簡単に検索できますので、結果をご確認ください。

(表1)農林畜産物の調査結果(8月)

放射性セシウムが検出されなかった品目と検体数	放射性セシウムが検出された品目と検体数		計
	基準値内で検出された品目と検体数	基準値を超過した品目と検体数	
15品目 54検体	2品目 8検体	0品目 0検体	17品目 62検体

(表2)1点も放射性セシウムが検出されなかった品目と検体数

エダマメ 1	スイカ 2	モロヘイヤ 2
カボチャ 1	パレイショ 3	パプリカ 1
オクラ 1	日本なし 9	モモ 1
ブドウ 1	イチジク 3	牛肉 9
原乳 3	菌床なめこ(施設) 2	菌床しいたけ(施設) 2

〈一般情報〉



「サンシャインいわき梨」 の出荷始まる

みなさん、今年のおいしいいわき梨はもうご賞味いただけましたか？

今年、8月16日(金)にJAいわき市梨選果場の操業開始式が開催され、梨の出荷が始まりました。いわき梨は「サンシャイン」の文字通り、太陽の光を十分に受け、甘味良好でみずみずしい果実が特徴です。

式では、JAいわき市梨選果場の松本運営委員長が、「今年、天候にも恵まれ良い果実に仕上がっている。消費者の期待に応えられるよう、安全で品質の良い梨を提供したい。」とあいさつされました。

また、主催者であるJAいわき市の甲高会長は、梨部会のいわき市農林業賞受賞を称え、「JAいわき市の光センサーによる品質保証を販売に生かしたい。」と販売への意気込みを語られました。

祝辞では、いわき市の鈴木副市長が、「風評は、心の問題。いわき産梨は、放射能の心配なし。市独自の見える化事業によりPRを強化したい。」といわき市農産物マスコットキャラクターの「なしポチ」を活用した販売促進活動に期待を込めました。いわき農林事務所からは農業振興普及部の積口副部長が出席し、「復興に向け、産地一体の取組が必要。一人一人がサンシャインいわき梨の営業本部長として、そのおいしさと安全性に自信を持ってPRしていただきたい。」と述べました。

この後、株式会社平果の鈴木専務取締役が、高らかに販売宣言し、なしポチから出荷トラックにのぼりがりレーされました。

販売される梨の品種も「幸水」から「豊水」へとリレーされ、9月下旬にはいよいよ福島県オリジナル品種「涼豊（りょうほう）」が登場します。秋の味覚「サンシャインいわき梨」をぜひご賞味ください。



(出荷された梨は、みなさんのお手元に届けられます)



新品種の意見交換 「天のつぶ」など4品種

8月26日(月)、いわき市内の水稲生産者で構成される「いわきコメの会」主催による現地研修会が行われました。根本会長から「いわき市内でも水稲の新品種の作付けが増えてきている。今回の研修で様々な品種の情報を得て、導入を検討し、今後の経営安定に生かして欲しい。」と開会のあいさつがありました。

現地ほ場では、「あきだわら」、「天のつぶ」、「北陸193号」、「べこごのみ」の4品種について、生育の様子を観察しながら意見交換を行いました。多収性で晩生の業務用品種「あきだわら」や極多収性でバイオエタノール用や飼料用などの新規需要米用品種「北陸193号」には、特に会員の関心が集まりました。また、耐倒伏性やいもち病抵抗性を持つ「天のつぶ」や直播栽培適性の高い「べこごのみ」については、栽培者の所感を交えながら活発な意見交換が行われました。今回の研修を受け、会員からは、「来年の作付けでの新品種導入を検討したい。」との声が上がりました。

いわきコメの会では、栽培技術向上に意欲のある会員を募集しています。いわきコメの会や新品種についての情報をお求めの方は、いわき農林事務所農業振興普及部までお問い合わせください。



(「天のつぶ」を育てている田)



いちごセミナー実施 いわきの新たな名産目指す

8月28日(水)、JAいわき市夏井支店において、新規就農希望者に対し、いちごの生産開始に向けたセミナーを開催しました。

本セミナーは、県で策定した園芸産地復興計画に基づき、JAいわき市いちご部会やJAいわき市、JA全農福島、いわき市、いわき農林事務所が一体となり、県内有数のいちご産地であるいわき地域の生産力向上を目的としています。

セミナーには、新規作付けを検討している生産者等16名が参加し、いちごの作り方や産地の状況を熱心に聞いていました。

また、セミナー後、平菅波地区にある国の震災復興事業を活用して建てられたハウスの視察が行われ、初めて見るいちご栽培の状況を参加者の多くは興味深く見学していました。

参加者の中には、作付けに前向きな方が多く、今後のいちご産地の担い手として大いに期待されます。



(熱心に説明を聞く参加者のみなさん)



(実際に栽培の現場を見学しました)



米の全量全袋検査 今年の実施に向け研修会

9月5日(木)、JAいわき市本店において、25年産米の全量全袋検査に係る検査業務研修会を開催しました。

福島県では平成24年度より米の全量全袋検査を実施しており、いわき市管内には9か所にベルトコンベアー式放射性セシウム検査器が導入されています。そして、市内で生産される全ての米を検査して安全を確保し、その結果をホームページを通じて流通業者や消費者の方々にわかりやすくお伝えしています。

25年産米についても、引き続き関係機関・団体の皆様と連携し、県産米のより一層の信頼向上と、安全・安心確保のため、全量全袋検査を実施します。

研修会には、農協担当者をはじめ、新たに全量全袋検査に従事する検査員の40名が出席し、円滑な検査の実施と、検査精度の向上を図るため、検査の趣旨や正しい検査方法等について理解を深めました。



(真剣に説明を聞く受講者のみなさん)



(有)平園芸(いわき市推薦) 福島県農業賞受賞

9月10日(火)、福島市の杉妻会館において、第54回福島県農業賞表彰式が行われました。

福島県農業賞は、今年で54回目を迎え、福島県、福島民報社、福島県農業会議などが主催となり、農業の振興と県民の農業への理解を深めることを目的として、経営改善や集団活動等に意欲的に取り組み、顕著な実績を上げられた農業者を表彰するもので、表彰された方々は、その名誉を称えて、「農業十傑」と呼ばれます。

いわき市から推薦の(有)平園芸は、農業経営改善部門で受賞し、薄葉丈夫代表取締役と奥様のちやこ取締役が出席しました。

(有)平園芸は、一年を通して温暖で日照時間が長いいわきの気候を生かし、日本有数の生産量を誇るアツツ桜を始め、シクラメンとカーネーションを併せた三本柱で生産を行っています。生産の時期が違う花を組み合わせるにより社員の通年雇用を実現し、また、夢と安らぎを与える花のある生活を広める「花育」にも熱心に取り組んでいることから、地域への貢献が重視されて、今回の受賞に至りました。

また、平成21年頃から経営の新たな柱となる花きとしてチェッカーベリーの生産にも取り組み始めるなど、新たな挑戦を続けています。

式では、まず佐藤県知事が、「地域の模範となる優れた実績を残された皆さんの活動は復興の原動力となるもので、今後ともその活動の幅広い展開を期待しています。」と主催者代表としてあいさつを述べました。続いて、同じく主催の福島民報社高橋社長から、「もし農業オリンピックがあれば、表彰された方は金メダル以上の名誉だ。今後は、若い人への技術的な支援と指導に尽力して欲しい。」とのあいさつがありました。

そして、受賞者に福島県知事賞、福島民報社賞などの賞状と記念品の楯や賞状用の額などが贈られました。

今回受賞された「農業十傑」の皆様が地域農業のリーダーとなり、大きな転換期に差し掛かっている本県農業を支える一翼を担うことが期待されます。



(知事より賞状と記念品が手渡されました)



知事との記念写真撮影(左:(有)平園芸薄葉丈夫代表取締役、右:奥様のちやこ取締役)

子どもたち作成のかかし 田んぼを見守る

9月10日(火)、いわき市立赤井小学校(5年生59名)において、県のふくしまの農育推進事業、「田んぼの学校」の第4回目となる「かかし作り」を行いました。

児童たちは、8つの班に分かれ、事前に児童自ら作成したオリジナルのイメージ図をもとにかかしを計8体製作しました。装飾として家庭で不要となった古着、布団の綿やCDを持ち寄るなど、各班それぞれに趣向を凝らしていました。中には自宅からマネキンを持参しフラガールに見立てるなど、各班ともユニークでアイデア満載のかかしに出来上がりました。児童からは、「かかしに服を着せるのが難しい。」、「首が長くなったりして、バランスが難しい。」という感想があったものの、最終的には自分たちの作品の出来ばえにとっても満足していました。

完成後、児童たちは、かかしを自ら学習田へ運び、黄金色となった稲の周りに立てました。

10月には稲刈りと脱穀作業、11月にはいよいよ収穫祭が行われます。



(どんなかかしができるかな)



(完成したかかしと記念撮影)

森の名手・名人 桶職人の遠藤芳子氏 選定

公益社団法人国土緑化推進機構主催による「平成25年度森の名手・名人」に、遠野町の桶職人、遠藤芳子氏が選定されました。

「森の名手・名人」とは、平成14年度から国土緑化推進機構が、森に関わる樵(きこり)、炭焼き、木地師、大工、椎茸生産等の生業において優れた技を極め他の模範となっている達人を「森の名手・名人」として毎年選定しているもので、平成25年度は全国で67名の方が選定されました。福島県では、これまで木工や炭焼きなど23名の方が選定されおり、いわき市では竹細工の石森功夫氏、野鍛冶の長谷川昭三氏に次ぎ3人目となります。

遠藤氏は、桶職人の夫との結婚を機に桶作りを始め、夫が亡くなった後も一人で桶作りを継続しています。主な材料である杉板を特殊な鉋(かな)で削って曲線を作り、合成接着剤などは一切使用せず、竹釘とご飯糊だけで板を貼り合わせ、竹箍(たが)で仕上げる昔ながらの製作方法を守り、たらいや漬物桶、飯切りなど様々な桶を製作しています。卓越した技術を有している遠藤氏のところへは、県内外を問わず広く注文が舞い込みます。また、「磐城手業の会」の木桶づくり体験教室や「匠の業」体験講座で講師を務めるなど、技術の伝承と後継者の育成に努めています。

なお、遠藤氏は、全国の高校生が森や海・川とともに生きる知恵や技を持つ「森の名手・名人」、「海・川の名人」を訪ね、その知恵と技術、人となりを取材・記録する「第12回聞き書き甲子園」参加の県立会津農林高等学校の生徒から取材を受けることになっています。



(桶職人の遠藤芳子氏)



野生きのこの摂取制限及び出荷制限について

野生きのこのシーズンを迎えようとしています。

福島県では、平成23年度から野生きのこの放射性セシウムのモニタリング検査を実施しており、その結果、複数の市町村において食品衛生法の基準値(100 Bq/kg)を超える放射性セシウムが検出され、下記市町村で野生きのこの摂取制限や出荷制限がかかっていますので、注意願います。

特にいわき市は、摂取制限及び出荷制限がかかっていますので、野生きのこの採取は行わないようにしてください。

野生きのこについて、摂取制限及び出荷制限となっている市町村

(9月20日現在)

摂取制限:いわき市、南相馬市、棚倉町
計 3市町村

出荷制限:中通り全29市町村、
浜通り全13市町村、
会津7市町村(喜多方市、
猪苗代町、会津坂下町、
磐梯町、北塩原村、昭和村、
下郷町)

食彩ふくしま地産地消推進店のメニューの紹介

地産地消推進日(10月は、8日(火)、18日(金)、28日(月))に合わせ、いわき農林事務所に情報提供のあった食彩ふくしま地産地消推進店のメニューを紹介いたしますので、ぜひご賞味ください。

なお、内容は変更される場合がありますのでご了承ください。

一膳(平字童子町)

1 推進日のメニュー

地産地消メニュー、実施日:マーボナス(8日)、肉ナス炒め(18日)、
肉ナストマトソース(28日)

説明:県産のナスを使用したメニューの添え物には、いわき産の野菜、加工品を使用しています。

2 推進日を含む毎日のメニュー

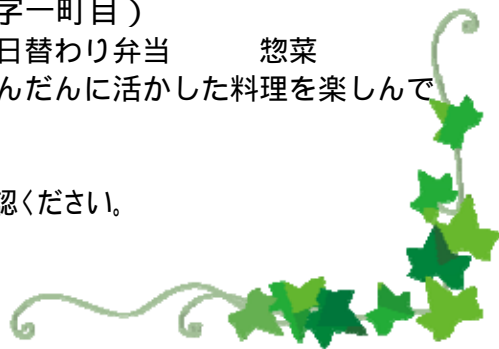
定食類のご飯には県産米を使用し、添え物には、いわき産の野菜、加工品を使用しています。

いわき食彩館株式会社 スカイストア（平字一丁目）

推進日を含む毎日のメニュー： 注文弁当 日替わり弁当 惣菜

説明：いわき、福島県産の安心・安全な食材をふんだんに活かした料理を楽しんでください。

営業日(メニューの実施日)については、事前に御確認ください。



いわき農林事務所からのお知らせ

ふくしまの最新情報を「ふくしま 新発売。」に掲載していますので
どうぞご利用ください。

<http://www.new-fukushima.jp/index.html>

1 「がんばろう ふくしま応援店！」一覧

2 イベント情報

3 農林水産物モニタリング情報

(1)モニタリング情報検索

(2)出荷制限等一覧表

「東日本大震災」
及び「原発事故」からの
復興のために！



皆様からのご意見・情報をお待ちしております。

福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課

〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地

(県いわき合同庁舎 3階)

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196

いわき農林水産ニュース

